

新^{しん} 緑^{みどり} ニュース



病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)

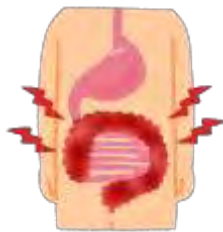


急増しているIBD:炎症性腸疾患について

横浜新緑総合病院 消化器内科 部長 白井 孝之

【はじめに】

IBDとは炎症性腸疾患(Inflammatory Bowel Disease)の略語です。原因不明の慢性ないし再発性の腸炎のうち、主に潰瘍性大腸炎とクローン病の2つの疾患を指し、多くは10代から30代位までの比較的若い時期に発症します。発症には遺伝性素因、食習慣、免疫の異常、腸内環境などが複雑に係っていると考えられていますが、原因の詳細はなお不明です。一方、炎症の進展、増悪などに関する因子はかなり判ってきており、ターゲットを絞った新しい薬剤の開発が進められています。患者数は急増しており、全国には潰瘍性大腸炎の方が推定22万人、クローン病の方が7万人いるとされ、当院にも累積100名以上の患者さんが通院されています。頻度の差はあれ、共通する症状としては、下痢、腹痛、発熱、出血（血便）、貧血、栄養障害などです。



炎・クローン病の特徴的な病変を確認することができます。

治療は厚生労働省難治性腸疾患研究班が毎年更新している潰瘍性大腸炎・クローン病治療指針に沿って行われます。年々多くの新規治療が登場し、今年も2剤が追加されました。治療法の決定には疾患活動性・重症度と先に述べた病型が鍵になります。病型に合わない治療は薬剤の病変部位への到達が悪く非効率的で、また疾患活動性（病勢）に見合った治療が行われないと、改善が不十分で病変が進行してしまいます。その時点での適切な病勢評価を行い、病状に合った治療法を担当医と相談の上決めて行くことが大切です。



【受診にあたって】

初診の際は紹介状、お薬手帳、既に疾病（難病）認定を受けている方はその申請書のコピーを持参しましょう。受診時は画像検査が行われることがあるので、可能でしたら直前の食事をしないで受診しましょう。症状は排便回数、便の性状、腹痛や発熱の有無、食欲や体重の変化、他臓器の症状の有無などを客観的に伝えるようにしましょう。病院には主な症状や経過を記入する症状日誌もあり、ダウンロードできるアプリもご案内できますのでお尋ねください。

【医療費助成制度】

IBDは厚生労働省の定める約300の難治性疾患（難病）に指定されており、患者さまが申請し難病指定されると医療費助成制度を利用できます。（一部の軽症例は除外）詳しくは患者相談窓口または担当医にお尋ねください。

【おわりに】

IBDの原因解明はまだ途上で、治療薬も多くのものが開発進行中であり、治療はまだ完璧ではありませんが、多くの患者さんの治療満足度は以前に比べ格段に良くなっています。克服もそんなに先の事ではないと希望を持って日々の治療を続けていただきたいと思います。

【潰瘍性大腸炎とは】

潰瘍性大腸炎は大腸壁の最も内側の層である粘膜およびその下の粘膜下層にびらん（ただれ）や潰瘍が出来る慢性の炎症で、直腸から口側に連続性に広がり、その広がりによって直腸炎型、左側大腸炎型、全大腸炎型に分けられます。概して広範囲のものほど重症な傾向があります。発症率に性差はありません。

【クローン病とは】

クローン病は非連続性に消化管全域に病変が生じますが、その主座は小腸と大腸です。病変の存在部位から、それぞれ小腸炎型、大腸炎型、両者に病変がまたがる小腸大腸炎型の3型に分けられます。小腸に病変のある型のほうが狭窄、穿孔などの合併症や栄養障害などを生じ易く難治です。男性が女性より約2倍多くなっています。

【診断と治療】

診断は上記の症状、経過、内視鏡検査や消化管造影・CTなどの画像検査、病理組織検査（生検標本の顕微鏡検査）により行います。特に内視鏡が重要で、潰瘍性大腸

6月18日(土)「第16回セコム医療グループ関東地区合同研究発表会」が開催されました。当院を含む関東地区のセコム提携医療機関が集まり、医療やケアの質向上に向けた日頃の取り組みや研究成果について、60演題が発表されました。今年是对面とWebを用いたハイブリット形式で行われました。

当院からは、2021年度に行われた院内学術発表会で入賞した上位4組が参加し、リハビリテーション部の「できる!と信じて ～患者の自己能力の過信は転倒に繋がるのか～」が銅賞に選ばれました。

本大会を通して他の医療機関の取り組みを共有することで、サービス向上や業務改善のアイデアが生まれます。今後もより良い医療を目指し、職員一同、研鑽を続けてまいります。



部門紹介 2022 | リハビリテーション部 訪問リハビリ

退院後の生活動作に不安を感じている方はいらっしゃいますか?そのような方を支援するのが、今回ご紹介する訪問リハビリテーションです。

訪問リハビリには、理学療法士4名、作業療法士1名が在籍しています。セラピストがご自宅に訪問し、機能の最大回復、動作能力の改善を図ります。具体的には、自宅内の環境が適切であるか評価し、動作の獲得を行います。そして安心して生活できるよう、介助方法の指導や福祉用具の提案を行います。また屋外の移動手段を検討し安全に行えるよう、実際に買い物へ行ったり、必要であれば公共交通機関を利用した外出訓練も行います。



当院の特徴は病院内に事業所があることです。各部署と連携を取り合い、家屋調査の同行やカンファレンスの参加など、退院支援も積極的に行っています。また主治医と連携し、日常の様子や病状の相談、緊急時でも対応できるシステムにより「連携の途切れないリハビリ」で退院後の生活をサポートしています。

訪問リハビリの対象は介護保険をお持ちの方です。ご利用を希望される際は担当ケアマネージャーや当院スタッフにお気軽にご相談ください。

リハビリテーション部 訪問リハビリ担当 森田 正裕



シリーズ健康豆知識 食物繊維をとろう ～水溶性食物繊維～

食物繊維 体内での作用

- ・腸内でビフィズス菌のエサになり腸の調子を良くし便秘を改善する。
 - ・糖質の吸収をおさえて、食後血糖値の急激な上昇を抑える。
 - ・小腸でコレステロールを吸収して体の外に排泄しやすくする。
- などの働きがあります。

現代の日本人の食物繊維の目標摂取量は男性20g以上・女性18g以上ですが、平均推定摂取量は14g程と約5g程度不足しています。いつもの食事に工夫してみてもいいでしょうか。

- ① 主食を変えてみる : オートミール(50g) 1.6g、そば(乾麺100g)1.6g、ライ麦パン(6枚切1枚)1.2g
- ② 副菜に取り入れてみる : 納豆1P(40g) 1g、小鉢(1皿60g)に使用 : 牛蒡1.4g/オクラ0.8g/ほうれんそう0.5g
- ③ スープに追加 : 糸寒天ひとつまみ(2g)1.6g、カットわかめひとつまみ(1g)0.5g

※食物繊維の制限が必要な方は医師に確認しましょう。

栄養科 管理栄養士 小柳 千恵



次回のWEB版みんなの健康講座

※8月配信予定

「腰部脊柱管狭窄症の診断と治療法」(仮) 講師: 横浜新緑総合病院 整形外科 副部長 川村 耕平